

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071401188		
法人名	医療法人康整会		
事業所名	グループホーム ツーハーツ		
所在地	福岡市早良区次郎丸5丁目18番28号		
自己評価作成日	平成28年8月22日	評価結果確定日	平成28年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

母体の医療機関だけでなく、他協力医療機関との連携を図り、各ユニットに配属されている看護師により、日々の健康管理から終末ケアまで御家族の要望に応じて介護を行い、お一人お一人の生き方に添って日々の生活の中で安心して楽しく過ごして頂けるように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ツーハーツ」は整形外科の医療法人を母体とする3ユニットのグループホームで、デイサービス・特定施設・有料老人ホームを併設する高齢者介護複合施設である。母体法人が長年地域医療に携わってきた中で、医療・看護面からも十分なケアのできる施設として開設され、「介護者・入居者の心が寄り添う」という意味で「ツーハーツ」と名付けられた。地下鉄の駅から徒歩圏内にあり、環状道路のランプからも近い。学校も近くにあり、また油山や飯盛山を望む環境にある。地域に根ざしたケアを目指し、終末期の対応にも前向きで希望されるケースも多く、独自のアセスメントシートや、「不適切なケアに対するチェック表」の利用など、日常の記録における取組の充実がうかがえる。職員の異動が少なく、施設長・管理者を中心に職員が一丸となってケアの充実に努めており、今後の発展が期待される事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(せせらぎ)							
自己	外部	項 目	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかぜ)	自己評価(こもれび)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝夕の申し送り時、理念の唱和を行うことで皆が理念を共有し、お一人お一人の気持ちを大切に楽しく過ごすためのアイデアを呈し実践している。	理念のカードを個々の名札に携行し、何時でも確認できるようにしている。又、唱和する事で意識付けしている。ユニットカンファレンスで協議し、理念に基づいたケアを実践している。	朝夕の申し送り時、理念の唱和を行うことで皆が理念を共有し、お一人お一人の気持ちを大切に楽しく過ごすためのアイデアを呈し実践している。	地域密着型の視点が盛り込まれている複合型施設全体の理念がある。施設内への掲示や、裏面に理念が記載された名札を職員が携行、また申し送り時などでの唱和などを通して職員にも浸透しており、理念に基づく目標(個人・ユニットごと)を設定するなどして、ケアの充実を入居者の満足感につなげるべく、実践に結び付けている。	目標を設定してその評価をするために「個人管理シート」の用意があるが、十分活用ができていない、との話がある。目標管理のための研修、面談、相互の評価を行ううえで、明確で建設的な対応がしやすい基準として生かしていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間イベントの中で、地域の方を招待して交流を深め、公園清掃参加や、中学生の職場体験、専門学校よりの実習生受け入れなど、相互交流の中で信頼関係が確立している。	毎月、地域の公園掃除に参加し、地域の方々との交流をしている。また、地域のボランティアによる演奏会や歌と一緒に楽しまれたり、地域の中学校の職場体験や専門学校からの実習生を受け入れたりしている。	年間イベントの中で、地域の方を招待したり、されたりで交流を深め、公園清掃参加や、中学生の職場体験、専門学校よりの実習生受け入れなど、相互交流の中で信頼関係が確立している。	自治会に参加し、地域の清掃活動には職員が参加。地域の祭りや近くの学校の学園祭にも参加する。施設全体で主催する祭りは毎年盛況で地域に馴染んでいる。クリスマス会や餅つき、敬老会など、職員の企画で進められる催しの他、幼稚園児の慰問、学生の職場実習、ボランティアとの交流なども盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、地域で困っている認知症1人暮らしの方について相談を受ける事も多く、行政と共に解決策を見出している。	地域運営推進会議を開催し、地域の方々と情報交換を行っている。入居者の御家族にも参加して頂き、支援の方法を説明したり、認知症介護の理解を深めるよう努めている。	運営推進会議の中で、地域で困っている認知症1人暮らしの方について相談を受ける事も多く、行政と共に解決策を見出している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	8ヶ月前より、ご家族にも参加を呼びかけ、入居前の状況、現在の状況、今後のことなどトータルサポートについて討議し、行政の意見も参考によりよい生活の為に、活発な会議となっている。	入居者状況や行事報告を行い、参加者の行政機関への質疑応答もあり、参考にしている。また、日々のサービスの中で問題が生じれば改善のための話し合いを行い、解決するよう努めている。	8ヶ月前より、ご家族にも参加して頂き、入居前の状況、現在の状況、今後のことなどトータル的なサポートについて討議し、行政の意見も参考に、よりよい生活の為に、活発な会議となっている。	入居者の家族の他、包括職員、近隣の居宅のケアマネジャー、自治会役員、民生委員、母体の病院の職員らが出席、議事によってはその関係者に声を掛ける事もある。活動や事例の報告の他、身近なテーマを選んだりすることで、サービス向上につながる提案もなされており、行事との同時開催などの工夫も行っている。議事録を作成して公開にも取り組み、不参加の家族に対しては議事を要約して記載したお便りを送付している。	開催は定着しており、内容も充実しているが、家族の参加が少なく、固定の傾向にある。声掛けに力を入れて、併せて家族の参加がしやすく関心が高まるように趣向を変えるなど工夫してみるのはいかがだろうか。現在入居者の参加はないが、現状は難しいと判断しているためであり、今後も引き続き柔軟な検討がなされることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議には市担当者のほか、包括支援センターよりも出席あり、地域の方より介護に関する質疑応答もあって、とても有意義である。ユニットとしても社会福祉協議会との協力体制も強化している。	地域運営推進会議の案内状を送付。アドバイスをもったり、意見交換を行っている。	運営会議には市担当者のほか、包括支援センターより出席があり、地域の方より介護に関する質疑応答もあって、とても有意義である。ユニットでも社会福祉協議会との協力体制も強化している。	日頃から行政へ運営に対する報告・連絡・相談を電話などで行い、また地域包括支援センターに対して困難事例についての相談の際には、担当職員が窓口を訪れて対応する。サービスの質の向上のための、行政との協力体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修でスタッフは学び、拘束をしないですむ介護を常に意見を出し合い実践している。	施設内研修において職員の理解を深め、ユニット内で身体拘束廃止に努めている。毎月行う身体拘束廃止委員会にて各部署と意見交換を行い、拘束のないケアを行っている。	施設内研修会でスタッフは学び、拘束をしないですむ介護を常に意見を出し合い実践している。	マニュアルがあり、外・内部の研修も行われており、スピーチロックを含め職員の理解もある。また「不適切なケアに対するチェック表」で毎月確認して対応を見直している。やむを得ず、玄関には施錠しておらず(センサーのチャイムはあり)、職員は入居者の外出傾向を把握、見守り等を行う。身体拘束に及ぶ場合の書類は完備しているが、使用していない。	

H28自己・外部評価表(ツ－ハーツ)確定

自己	外部	項 目	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかぜ)	自己評価(こもれび)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修においてスタッフへの理解を深め、法令遵守会議でも確認し、月当番で各スタッフに不適切ケアチェックの責任を持たせて指導している。	施設内研修において、職員の理解を深めている。グループワークにて意見交換を行い、防止対策を考案し、未然に防げるよう職員に意識付けを徹底している。	施設内研修会においてスタッフの理解を深め、法令遵守会議でも確認し、月当番で各スタッフに不適切ケアチェックの責任を持たせて指導している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で学び、外部研修参加の機会も得ている。	施設内研修にて制度について議題を取り上げ、理解を深めている。対象者がいれば、必要に応じて対応が出来るように意識付けしている。	施設内研修会で学び、外部研修参加の機会も得ている。	成年後見制度の利用者が1名いるが入居前からの制度利用で、入居後の利用に至った事例はない。資料は常備しており、施設内にて外部講師を招いての研修を行うなど、職員が理解を深めるよう努めており、制度の意味、対応方法などは職員間で共有している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、運営規程は読み上げ、説明し、疑問不安の解決を行い、充分に理解をした後に契約書へのサインを頂いている。	契約の際、重要事項説明書、運営規程を丁寧に読み上げ、説明不足の部分や、疑問点を確認しながら、ご理解、ご納得をして頂いている必ず職員が3名立ち会うことで、充分な説明ができるよう努めている。。	重要事項説明書、運営規程等は読み上げ、説明し、疑問不安の解決を行い、充分に理解をした後に契約書へのサインを頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入口に大きなポスターを貼り、外部への意見を伝える案内をしており、各部署入口にはご意見箱を設置し、管理者は毎日内容を確認して施設長へ報告、対処している。	家族会の開催、意見箱の設置により、ご意見、ご相談の受ける機会を設けている。ご家族の面会時、ご要望を尋ね、対応についてスタッフ間で検討している。	施設入口に大きなポスターを貼り、外部への意見を伝える案内をしており、各部署入口にはご意見箱を設置し、管理者は毎日内容を確認して施設長へ報告、対処している。	入居者からは日々のかかわりの中で聴取を行い、速やかな対応につなげている。また家族に対しては、こまめに連絡を取って意見や思いを述べる機会づくりに努めている。家族会を通してアンケートを行い、その結果を運営に活かしている。意見箱も設置するも意見回収はなく、面会に来る家族の職員側から声掛けをして行う口頭でのやり取りが殆どという状況である。行事に参加する家族も多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議の中で、施設長を含む運営に関するスタッフ間の意見を交換して問題解決している。	運営会議にて法人代表者や管理者が話し合う場が設けられている。また、グループホームに関する事は、グループホーム会議や、ユニットカンファにて報告し、意見交換している。	毎月のグループホーム会議の中で、施設長を含む運営に関するスタッフ間の意見を交換して問題解決している。	職員は、定例会議やユニットごとのカンファレンスの中で、意見や気付き等何でも言える環境にあり、また管理者はそれを積極的に運営に取り入れ、また速やかにフィードバックを行う事で信頼関係を築いている。管理者も現場に入ること職員も意見を上げやすい。離職(件数は少ない)を含めた職員の交替時には遺漏がないよう注意を払っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年度に比べると、就業環境ははるかに改善されている。安定した給与水準は確保されている。	勤務実績、勤務状況、資格取得などの諸条件にて、正社員登用など、雇用条件の向上が図られている。	昨年度に比べると、就業環境ははるかに改善されている。安定した給与水準は確保されている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別に関係なく働く意志のある健康な人であれば採用されていて、経験を生かせる職場であり、個々が目標を持ってお互いをサポートしながら生き生きと働いている。	年齢性別による採用の可否はない。有給休暇や職員の希望に応じた休日、研修参加などを配慮した勤務シフトを作成している。	年齢・性別に関係なく働く意志のある健康な人であれば採用されていて、経験を生かせる職場であり、個々が目標を持ってお互いをサポートしながら生き生きと働いている。	個人の特技や能力を生かして割り当てられた日常業務に対し、職員は責任を持ってその役割をこなしている。入職後のスキルアップ、研修への参加、資格取得の支援にも前向きで、勤務のシフトを柔軟に対応するなどの体制も整っている。日頃の休憩には時間・場所とも確保されている。幅広い世代の職員が生き生きと働いており(20～60代。定年後の雇用継続あり)、安心して働ける職場環境を目指している。	

H28自己・外部評価表(ツーマーツ)確定

自己	外部	項 目	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかぜ)	自己評価(こもれび)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修テーマにあげられていて、日々管理者は入居者様の人権が損なわれないように指導している。	施設内研修にテーマを取り入れ、理解を深めており、支援の中で活かされている。接遇に関しては特に力を入れて指導を行っている。	施設内研修テーマにあげられていて、日々管理者は入居者様の人権が損なわれないように指導している。	人権に関する外部研修受講とそのあとの伝達講習の資料がある他、マニュアルやチェック表を通して、虐待や適切でないケアの防止について理解を深める機会は多く、職員は接遇面を含めて認識している。人権を尊重した支援の実践を、管理者が中心となって取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設が必要と認めた外部研修へは業務扱いで参加してもらい、受講料、交通費も法人が負担している。現場へのフィードバックも行って、個々のモチベーションもあがっている。	職員研修を毎月開催している。外部の研修参加に関しては、法人からの補助体制が確立されている。また、各種資格取得のためのスクーリング出席の際は、法人の規程に定められたものについては出勤扱いとなる。	施設が必要と認めた外部研修へは業務扱いで参加してもらい、受講料、交通費も法人が負担している。現場へのフィードバックも行って、個々のモチベーションもあがっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域運営推進会議では、他同業者にも出席を促し、意見交換の場にもなっている。	外部研修に参加した際、他事業所とのネットワーク作りを心掛け、新しい情報収集に努めている。又、他グループホームとは、「伊都の会」にて情報交換を行った。	地域運営推進会議では、他同業者にも出席を促し、意見交換の場にもなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期はこれまでの生活習慣を優先してケアにあたり、不安がないように見守り傾聴している。	入居前の情報収集見学にて徐々に信頼を深め、傾聴・受容の姿勢で本人が安心して生活できるようにしている。	入居初期はこれまでの生活習慣を優先してケアにあたり、不安がないように見守り傾聴している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、契約時に御家族の要望を取り入れ、不安を感じることがないようにスタッフ間の情報共有も行っている。	事前面談を行い、要望意見などを聞き安心される介護を提供し、その中で信頼関係を深めていく。	入居前、契約時に御家族の要望を取り入れ、不安を感じることがないようにスタッフ間の情報共有も行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報によるサービス計画書を作成し、安心して暮らせるように、理解が得られる支援をしている。	入居前情報の収集や事前の面談で、必要とされる支援を見極め対応し、安心できるサービスを提供している。	入居前の情報によるサービス計画書を作成し、安心して暮らせるように、理解が得られる支援をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが声掛けし、御本人が出来ることのお手伝いをして頂く等、一緒に行動している。	日々のレクリエーションや創作活動など職員と一緒に過ごす時間を多く持ち、共に寄り添うことで関係を構築している。	スタッフが声掛けし、御本人が出来ることのお手伝いをして頂く等、一緒に行動している。(例:洗濯物干しや洗濯物たたみ)		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告し、体調を考えて外出の機会を持てるよう、アドバイスをを行っている。定期的に写真入りメッセージカードを送付している。	日々の生活や興味を示したことなど報告。また、家族と過ごした時間の会話や、表情など、情報交換し、双方が安心して生活できるように心がけている。	面会時に近況報告し、体調を考えて外出の機会を持てるよう、アドバイスをを行っている。定期的に写真入りメッセージカードを送付している。		

H28自己・外部評価表(ツーハーツ)確定

自己	外部	項 目	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかせ)	自己評価(こもれび)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも受け入れ、楽しい会話の場を支援している。面会にこれないときは電話を取次いで、楽しく語りあえる時間の支援を行っている。	面会に来やすい環境作りを心がけ、昔からのご友人やご親類の面会などが途切れないよう支援に努めている。また、外出時には車椅子を貸し出すなど、サポートを行っている。	面会はいつでも受け入れ、楽しい会話の場を支援している。面会にこれないときは電話を取次いで、楽しく語りあえる時間の支援を行っている。	職員は、入居者の馴染みの場所や人、趣味について入居者本人や家族などから把握して共有している。懐かしい場所(理髪店など)を訪れたり、地域の顔見知りの方との面会があったり、自宅に外泊したり、知人に電話や手紙で連絡をとったり、昔就いていた仕事関連の作業をしてもらったり(踊りの先生だった方に着付けをお願いするなど)…と、入居者が馴染んでこられた関係を継続できるよう個別支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様がお互いに声を掛け合い、「大家族の一員」であるという意識を常に持って接している。いつでも全員が顔を合わせられる時を提供している。	日ごろの環境を考慮し、座席の関係を配慮している。フロアで過ごす時間を多くとり、職員がサポートしながら、楽しい時間を過ごせるように支援している。	各利用者様がお互いに声を掛け合い、「大家族の一員」であるという意識を常に持って接している。いつでも全員が顔を合わせられる時を提供している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方が、いつでも訪問できて、楽しい思い出の場になれるように支援し、相談にも応じられる関係を保っている。	他施設への転居など、退居した後も相談があれば対応できる旨を契約時退居時に説明している。	退居された方が、いつでも訪問できて、楽しい思い出の場になれるように支援し、相談にも応じられる関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買物、外出時はスタッフだけでなく、ご家族の協力も得て達成できるよう努めている。	日々の関わりの中で、傾聴や会話を重視している。困難事例があれば、ユニットカンファレンスなどで意見を出し合い、本人に添う方法を検討している。	買物、外出希望の時はスタッフだけでなく、ご家族の協力も得て達成できるよう努めている。	独自のアセスメント様式を使用して3～6ヶ月ごとに見直しを行う。入居者やその家族との会話の中から、生活歴や趣味、好きな事、してみたい事などを聴き取り、職員間で希望や意向を共有している。また、意思疎通の困難な入居者には、表情等から真意を推し測ったり、問いかけを工夫したりして、一人一人の思いの引き出しに努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報に基づき、暮らし方や、生活環境が急変しないように心配りしている。	事前面談や関係各所からの情報を軸に、家族や本人の話などで把握に努めている。	入居前の情報に基づき、暮らし方や、生活環境が急変しないように配慮している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	可能な限り残存能力を支援したサービス提供を行う。毎日の観察ケアの中で、心身状態を把握し、申し送りで他スタッフとの情報共有を行っている。	日々の様子や情報をしっかり伝え、スタッフ同士の申し送りで現状把握に努めている。	可能な限り残存能力を支援したサービス提供を行う。毎日の観察ケアの中で、心身状態を把握し、申し送りで他スタッフとの情報共有を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングシートを使い、課題とケアを考える。全スタッフが係わるように評価も含めて行っている。御家族にもその旨を伝えて、希望を取り入れている。	家族や本人とのコミュニケーションを多く取り、気付き、申し送り事項をカンファレンスに取り上げ、介護計画に反映している。	モニタリングシートを使い、課題とケアを考える。全スタッフが携わるように評価も含めて行っている。御家族にもその旨を伝えて、希望を取り入れている。	介護計画を3ヶ月毎もしくは随時見直ししている。毎日のプラン実施を目標ごとにチェックし、計画作成担当者を中心とした毎月のモニタリングをもとに活かしており、また医師、看護師、PTら関わる職種の意見もまじえて、毎月の会議時にカンファレンスを行い、職員全員で話し合う。介護計画は家族(入居者)へ直接説明し同意の署名をもらう。計画は、各入居者のその時点に沿った具体的なものになっており、職員はそれを共有する。	

H28自己・外部評価表(ツーハーツ)確定

自己	外部	項 目	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかぜ)	自己評価(こもれび)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有は介護日誌と申し送りにて行い、カンファレンスで討議している。日々の観察と記録はとても重要である。	スタッフの申し送りにて情報を共有。個々のノートに記録し良いアイデアは即実践して見直し、介護計画に取り入れている。	情報共有は介護日誌と申し送りにて行い、カンファレンスで討議している。日々の観察と記録はとても重要である。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があり、必要であれば整形外科だけの対応ではなく、訪問歯科、訪問リハビリなどの個別対応を行っている。	ご家族や入居者の要望を取り入れた支援を行い、母体である整形外科医や専門医との連携を行い、ニーズに対応できるよう動めている。	希望があり、必要であれば整形外科だけの対応ではなく、訪問歯科、訪問リハビリなどの個別対応を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア団体、個別ボランティアの受け入れを行い、楽しい時間を設けている。(傾聴ボランティアや歌のボランティア等)	近隣中学校の職場体験や実習生の受け入れ、年中行事にて子供会等へ参加を呼びかけている。又、地域資源を活用した外出を行い、地域とのふれあひも大切にしている。	地域ボランティア団体、個別ボランティアの受け入れを行い、楽しい時間を設けている。(傾聴ボランティアや歌のボランティア等)		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は当施設の送迎車を使用する手配を行い、安心して受診できる体制がある。	本人およびご家族の希望があれば、かかりつけ医の受診を支援している。家族での対応が困難なときは施設で対応している。母体である整形外科医院との医療連携も図っている。	受診時は当施設の送迎車を使用する手配を行い、御家族も安心して受診できる体制がある。	入居時に意向を確認するが、大半の方は母体の医院(訪問診療も行っている)を希望する。それ以外の病院受診の場合は基本的には家族が行うが、職員が同行する場合もある。受診後は、処方された薬の内容も含めて、医療情報提供書や連絡ノートにより、申し送り時に共有する。家族にもその都度連絡をする。常勤の看護師が利用者の健康状態を常に把握している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や急変時は、各ユニットの看護師が対応し、状況によっては、受診付添、入院手配を行う。	各ユニットに看護師を介護職として配属しており、健康状態を把握、報告相談している。時間外も常に連絡がとれ、必要に応じて出勤している。	体調不良や急変時は、各ユニットの看護師が対応し、状況によっては、受診付添、入院手配を行う。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は看護師(管理者)が医師との連携をとりながら、病院との情報交換を行い、病院スタッフとの信頼関係も構築している。入院中は3日毎に面会に行っている。	管理者又は看護師が医療機関を訪問し、主治医やソーシャルワーカー、看護師との情報交換を行っている。	入退院時は看護師(管理者)が医師間のみならず情報交換に携わり、病院スタッフとの信頼関係も構築している。入院中は3日毎に面会に行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りカンファレンスを医師・御家族・管理者・スタッフで行い、最後まで住み慣れた環境で過ごされる支援を行っている。	慣れ親しんだ施設で終末期を、との希望があれば、説明を行い支援を行っている。医療機関への連携を図り、担当医、家族、スタッフとの話し合いの場を設けている。	看取りカンファレンスを医師・御家族・管理者・スタッフで行い、最後まで住み慣れた環境で過ごされるような支援を行っている。	施設の指針あり、入居(契約)時に家族から承諾を受ける。急変時には医師の指示のもとに家族に説明のうえ、再度話し合いを行い方針を決定、改めて書面にて同意をとり、職員にも共有を図る。施設での看取りの実例、また終末をここで迎えさせたい...と希望する家族も多く、事業所としてはできる限りの支援を行っていく考えである。急変時のマニュアルは整備されている。	重度化や終末期を迎えた方の対応を希望される方が多いこともあり、職員より、マニュアルの定期的な読み合わせと適切な理解を深める必要がある、との前向きな話がある。職員全体で対応が迅速にできるような心掛けとして期待したい。

H28自己・外部評価表(ツーマーツ)確定

自己	外部	項 目	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかぜ)	自己評価(こもれび)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に4回、救急蘇生の研修会があり、全スタッフ熟知している。	施設内研修のカリキュラムに取り入れ、防災センターの講師より緊急時の対応の講習を受けている。	年に4回、救急蘇生の研修会があり、全スタッフ熟知している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は年に2回実施され、初期消火活動、避難方法等を学んでいる。防災マニュアルは地震も含め、現在変更見直し中。	年2回の防災訓練を実施している。消火栓を使い、実際に放水し、全職員が使えるように訓練している。	防火訓練は年に2回実施され、初期消火活動、避難方法等を学んでいる。防災マニュアルは地震も含め、現在変更見直し中。	年2回(うち1回は消防署が立ち合う)、施設全体で避難訓練を実施している。夜間を想定して行っており、地域の方の参加もある。また、地域や関連施設を含めた連絡網およびマニュアルの整備、消火器や避難経路などの定期点検などにより、日頃から万一の場合に備えている。	備蓄が常備されている関連施設は隣接とまでではないため、当該ホーム内でも、ある程度の確保と期日管理が必要かと考える。現状に即したマニュアルの見直しを行っている状況でもあり、併せて検討されてはいいかだろう。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄介助時は、プライバシーを確保し、人権を尊重する声掛けを行っている。「…ちゃん」とは呼ばない。常に丁寧な言葉で語りかけるよう指導している。	個々に応じた声掛けや、視線を合わせて傾聴を行い、常に尊厳を大切にしている。施設内研修のカリキュラムにも取り入れられている。	入浴、排泄介助時は、プライバシーを確保し、人権を尊重する言葉掛けを行っている。「…ちゃん」とは呼ばない。常に丁寧な言葉で語りかけるよう指導している。	言葉遣いや対応について、親しみやすさと礼儀の違いをわきまえたうえで敬意を持って行い、またプライバシーにも気を配るよう、日常業務の中で、管理者や相互にて注意をしている。マニュアルが整備されており、内部(外部講師招聘あり)・外部研修への参加もある。新人や実習生に対しても徹底をする事で、ケアの充実を図っている。	個人情報保護においては入居者(家族)に説明、書面にて理解を得ている。写真利用は許可を得たものだけに留めているが、制約もあり、写真の掲示や広報への利用に関しても同様の対応をして理解を求めても良いのではないかと考え、検討をお願いしたい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が伝えやすいように、日頃より対話を多くして、気楽に気持ちを表現したり、自己決定の機会を多く持てるように支援している。	共感的な対応を心がけ、日々の表情や会話で本人の意思を尊重し、自己決定できるように配慮している。	思いや希望が伝えやすいように、日頃より対話を多くして、気楽に気持ちを表現したり、自己決定の機会を多く持てるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛け時、拒否があれば時間が経過してから再度声掛けをするように指導している。	個々のペースに合わせた余暇時間を過ごしている。レクリエーション参加も強制せず、咽、体操等、自由参加にして配慮している。	声掛け時、拒否があれば時間が経過してから再度声掛けをするように指導している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着ている服をほめる。理美容は御本人の要望を聞いて決める。訪問理容のみならず、近くの理容室への外出もスタッフ同伴で行っている。	日常着も本人の好きな物を選んで頂いている。訪問理美容で好みの髪型やカラーにしている。	着ている服をほめる。理美容は御本人の要望を聞いて決める。訪問理容のみならず、近くの理容室への外出もスタッフ同伴で行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	落ち着いた食事ができるように音楽を流し、スタッフも同じテーブルで共に食事をしている。メニューの説明も行い、味付けの評価も共に行う。可能な方にはテーブルセッティングも手伝ってもらっている。	音楽などで落ち着いた雰囲気の中、職員と一緒に食事を囲み、楽しく食事している。食器洗いなど、自発的に手伝われる方もいる。テーブルの位置にも配慮している。	落ち着いた食事ができるようにモーツァルトの音楽を流しながら、スタッフも各テーブルで共に食事をしている。メニューの説明も行い、味付けの評価も共に行う。食器洗いも共々している。	日頃は献立作成も含めて、厨房委託での集中管理をしている。事業所内では、毎回の炊飯の他、行事(レクリエーション)食の調理などを行う他、収穫した野菜を食卓に並べる事がある。給食会議を通して意見の反映をする。職員は同じメニューを、会話をしながら一緒に食事、また使い慣れた食器を使うなど、食事が楽しくなるよう心掛けている。入居者は配・下膳やお皿拭きなどを手伝っている。	

H28自己・外部評価表(ツーマーツ)確定

自己	外部	項 目	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかぜ)	自己評価(こもれび)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食思観察を行い、食べれないときは形態変更を行い、食べやすくしている。水分も昼間とれなかったときは夕方に追加できるよう、スタッフ間で情報共有している。	栄養士の管理の下、個々の体調や状況、咀嚼・嚥下状態に応じた食事が提供されている。食事量に応じて栄養補助食品などで補っている。水分も茶話会やおやつ時以外でも個々に合わせて摂取するよう心がけている。	食思観察を行い、食べれないときは形態変更を行い、食べやすくしている。水分も昼間とれなかったときは夕方に追加できるよう、スタッフ間で情報共有している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き困難な方は、清浄液にてスタッフがブラッシングを行っている。義歯洗浄は隔日に行っている。	毎食後、口腔ケアの見守りや介助を行い、残渣物の無いようチェックしている。夜間は義歯を外し、洗浄消毒をしている。往診歯科の受診も可能。	歯磨き困難な方は、毎食後、清浄液にてスタッフがブラッシングを行っている。義歯洗浄は隔日に行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便コントロールは医師の指示のもと、看護師が行っている。座位が保てる方は、トイレでの排便支援を行っている。	排便意思表示の難しい方は、その方特有のサインをキャッチし、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導、介助を行っている。	排便コントロールは医師の指示のもと、看護師が行っている。座位が保てる方は、トイレでの排便支援を行っている。	各入居者の排泄パターンを、水分や食事の摂取量と併せて個人別のチェック表で把握、職員が共有し、適切な介助につなげている。こまめにトイレ誘導を行う(ポータブルトイレの使用もあり)ことでおむつから布パンツになった例もあり、おむつやパッドの使用量や各入居者の不快感の軽減や自立に繋がっている。失敗時のプライバシー保護には職員も十分注意している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分は充分に補給されるようチェックしている。(1.5ℓ/日)便秘の方には、医師による緩下剤処方あり。個々の排便観察は毎日行っている。	自然排便を基本とし、水分摂取と運動で便秘予防に努めている。排泄チェック表で排便状況の確認を行い、排便困難な時は医師の指示に従い緩下剤を使用している。	水分は充分に補給されるようチェックしている。(1.5ℓ/日)便秘の方には、医師による緩下剤処方あり。個々の排便観察は毎日行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴声掛けで、拒否のあった時は、他のスタッフが声掛けをするが、更に拒否があれば、翌日へ変更している。午前中に入浴が難しければ午後へ移行するなど、個別に対応している。	一人ひとりの希望に添うように、心がけている。拒否の強い方に対しては、声掛けを工夫し、時間や入浴日等柔軟な対応をしている。	入浴声掛けで、拒否のあった時は、他のスタッフが声掛けをするが、更に拒否があれば、翌日へ変更している。午前中に入浴が難しければ午後へ移行するなど、個別に対応している。	週2回(月～土曜)が基本だが、臨機応変な対応も可能。拒否される場合は無理強いせず、時間や職員を替えて促し直す。入浴剤を使用したり、シャンプーを選ばせたりするなど入浴が楽しくなる工夫を行い、また皮膚疾患を観察するなど、職員は健康管理とコミュニケーションの機会とも捉えている。冬場はヒーターを設置、介助がしやすく、また入居者の安全面にも配慮されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は個別対応している。午睡をしたくない方は、フロアでスタッフと楽しく談話して過ごせる支援を行っている。	毎日の睡眠時間を記録し、把握した上で、本人の希望と体調や生活スタイルにあわせ、柔軟に対応している。	入眠時間は個別対応している。午睡をしたくない方は、フロアでスタッフと楽しく談話して過ごせる支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はいつでもすぐに見れる所に保管していて、新しく処方された薬については、効能と副作用の観察について看護師がスタッフに伝えている。	処方内容を確認できるようにお薬手帳・薬剤情報を活用している。処方時には薬剤師の管理を受け、副作用の有無、経過などの報告を行っている。	薬剤情報はいつでもすぐに見れる所に保管している。新しく処方された薬については、効能と副作用の観察について看護師がスタッフに伝えている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事のお手伝いに対して、スタッフより感謝の言葉を伝えることで、その方の喜びにもなる。音楽系の支援はとても喜ばれるので、デイサービスでのイベントにも出来るだけ参加援助を行っている。	生活歴を把握したうえで、洗濯物たたみや着付け教室、新聞読み、ビデオ視聴など、それぞれの嗜好にあわせての役割や楽しみごとを行っている。	出来る事のお手伝いに対して、スタッフより感謝の言葉を伝えることで、その方の喜びにもなる。音楽系の支援はとても喜ばれるので、デイサービスでのイベントにも出来るだけ参加援助を行っている。		

H28自己・外部評価表(ツーハーツ)確定

自己	外部	項 目	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかぜ)	自己評価(こもれび)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暑さ、寒さを肌で感じて頂きたく、時間は短くても、外気浴を取り入れている。菜園もあるので、草取り、収穫も楽しめる。個別に御家族やスタッフと外出している。	気候に応じ施設内の畑に作物を植え、収穫を楽しんだりしている。天気の良い日には、博多祇園山笠の見学やドライブ、地域の飲食店での外食などを楽しんで頂いている。	暑さ、寒さを肌で感じて頂きたく、時間は短くても、外気浴を取り入れている。菜園もあるので、草取り、収穫も楽しめる。個別に御家族やスタッフと外出している。	季節ごとの花見や山笠見物など、年4～5回の外出レクを行う他、日常的に散歩や買物などを、集団または個別に行う。車いすの方や活動量の少ない方に対しても、作物への水やりなどでの外気浴をしたり、屋内を移動したり、といった機会を可能な限り作っている。他にも、外部での地域の行事に参加したり、家族と出掛ける際の支援も行ったりするなど、外出の楽しみを満喫してもらえるように努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う意思決定が出来る方はいないが、移動バン屋においての買物時間を支援している。	金銭的な事は事務が管理している。使用については家族の了解を得て、移動バン屋や移動売店、バザーなどの買い物で使用できるようにしている。	希望のある方は、近くのコンビニにお金を持って買物に行っている。スタッフは同行するが、レジでの支払いはご自分で頂く。(お金の管理は、必要分を法人立替で、利用料請求時に併せて請求)		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる御家族の頼りは、読み聞かせ喜ばれるが、自らの意志で便りは書けない為、スタッフが近況報告メッセージカード(写真入り)を送っている。	本人の希望があれば、家族の了承のもと何時でも電話できるようにしている。	荷物が届いたときのお礼の電話など、希望があればいつでも対応。年賀状もやりとりされるための支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには温湿度計があり、直接エアコン送風がこないように管理している。フロアには常に心地良い音楽が流れ、ゆったりとした気分でも過ごせるように心掛けている。	清潔を保ち、換気や湿度に十分に配慮し、不快な臭気がないよう消臭剤や空気清浄機を使用している。共用部分には季節の飾りを作成し楽しんでいる。	フロアには温湿度計があり、直接身体にエアコン送風がこないように管理している。フロアには常に心地良い音楽が流れ、ゆったりとした気分でも過ごせるように心掛けている。	建物の2階に2ユニット、3階に1ユニットで配置され、ユニットごとにトイレ(2ヶ所ずつ、洗面台や手すりの高さ、物の配置などは、入居者の視線に合わせるようにしている)および浴室がある。改造により空間を広げたユニットもあり、広いホールでの休憩、談話の他、レクリエーションも楽しめる。家庭的な雰囲気大切にホールを中心とした各居室は、職員から見渡しやすい。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは気が合いそうな方同士が近くなれる椅子の配置をしている。いつでも居室との行き来ができるような環境を作っている。	フロアへの畳を撤去し、広い空間にソファを配置し、自席以外にも寛げる場を設けている。	フロアでは気が合いそうな方同士が近くなれる椅子の配置をしている。いつでも居室との行き来ができるような環境を作っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を入居時に持ち込み、安心して過ごせる空間となっている。	使用されていた筆筒やテレビ仏壇などを置いたり、ご家族の写真や思い出の品を飾って心地良く過ごせるように努めている。	なじみの家具を入居時に持ち込んでもらっているのもので、安心して過ごせる空間となっている。	ベッド(ギャッジ付)、エアコンが備えられていて、各室には入居者が自由に使えるスペースが確保されている。使い慣れた家具、筆筒、仏壇などの持ち込みの他、写真や家族の作品などを掲示するなどして、個性的な居室で居心地よく過ごせる工夫がなされている。清掃も行き届いている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には個々の名札があり、トイレも分かりやすい場所にあるので、自由に一人で行き来することが出来る。	危険な物は適切に管理し、見守りながら本人らしく自由に行動して頂いている。	居室入口には各々個性的ですぐわかる表札があり、トイレも分かりやすい場所にあるので、自由に一人で行き来することが出来る。		